三和区における「地域活性化の方向性」

≪三和区の地域活性化に向けて≫

三和区は、上越市の中央に位置し、広大な田園や里山、ため池など豊かな自然環境に恵まれています。こうした美しい景観や地域資源を大切にしながら、今後予定されている上沼道三和 IC（本郷）の開通を見据え、住民一人一人が様々な活動に参画し、心豊かで安全・安心なまちづくりを進めていきます。

〇構成要素

① 自然（谷内池やオニバス等）や田園の環境保全と情報発信
② 三和区の宝（林富永邸、大間城址、北代ぶどう園等）を巡る通年観光の企画及びイベント等の実施
③ 安全･安心でおいしい米産地として付加価値の高い地域ブランドの形成と、味噌や地酒、栗などの産品を活用した特産品の開発
④ 新たな「地域づくりリーダー」や「地域活動コーディネーター」の育成と社会教育の推進
⑤ 地域活性化に寄与する空き家の活用と移住者への支援

○各団体と地域協議会との意見交換＜主な意見＞

◆三和西部工業団地組合（令和３年８月 26 日）
- １年に２回地域住民との交流（団地内清掃活動・納涼会）を実施している
- さんわ桜の陣の開催について、工業団地としてもバックアップしていきたい
- 三和区住民に対する団地内企業の認知度が低い
- 団地内企業に三和区の若者が勤める方法はないか

◆青少年育成会議（令和３年 11 月 24 日）
- 青少年育成会議の活動は楽しく、人と人とのつながりを大切にしている
- 様々な活動で体が動くと心も動く
- 人生の先輩として何を後輩に残せるか。そこが決まらないと三和は元気がでない
- 育成会議のメンバーは、当初充て職だったが、声掛けで人数を増やしていった
- コーディネーターは、校区の偏りを無くして後継者を見つけていきたい
- イベントの企画は大人が主体であったが、今は中学生が企画し、郷土を良くしようという気持ちが伝わってくる
- さんわ祭りや体育祭の企画立案も、小・中学生が参画すべきである
- いくら良いことをしても、地域住民が知らなければ、それで終わってしまう
- 地域づくりやまちづくりは、ボトムアップで自ら動いて取り組むものである
- 声掛けができる環境が整えば、世代を超えた交流も可能となる
- 表に出て活動をすることも大切だが、自分ができる範囲の中で裏方として何ができるのか、受け身でなく自分で考えて行動していくことが大切である

◆町内会長協議会　１回目（令和４年４月７日）　※意見交換
- 町内に空き家が増えて、建物の倒壊が心配である
- 少子高齢化により、町内会活動が停滞している
- 町内会役員のなり手がいない
- 町内会長がいなくなる時代が来たら、行政はどのように対応するのか
- 地域活動の負担が大きく、行事に参加しない人や区外に移住する人もいる
- 移住者と地域住民との意思疎通に支障が生じている
- 農業の後継者が不足している
- 山間部の農地が耕作放棄地となり荒廃している
- 冬場に一人住まいの高齢者が安心して入居できる場所がほしい

◆NPO 法人 三和区振興会（令和４年８月 18 日）
- 地域活性化の方向性（案）について、構成要素の取組①～⑤は、記載内容のレベルを合わせて、それぞれで具体策が出せるかが勝負になる（振興会）
- 三和区振興会の財源確保について、区内の団体や企業からも振興会の活動に賛同いただき、会員を増やす取組も有効だと思う（地域協議会）

◆町内会長協議会　２回目（令和４年 11 月 24 日）　※方向性（案）に対する意見
- 米産地として、農業者を育てていくような取組も入れてほしい
- 三和区地域福祉活動計画とタイアップしながら、取組を進めてほしい

○三和区の主な課題（まとめ）
- 三和区の活性化に尽力できるリーダーの発掘
- まちづくりリーダーの育成
- 三和区ネットワーク会議における主要団体との連携の強化
- 少子高齢化に伴う高齢者世帯及び空き家の増加抑制
- 空き家の活用
- 世代間の交流の場及び子どもと高齢者の居場所づくり
- 三和区の名所・旧跡や自然を活用した賑わいの場づくりと積極的な情報発信
- 三和の素晴らしい景観を形成している溜池や丘陵地の保全活動
- 集落機能の維持と強化
- 高齢化に伴う農用地等の保全と持続可能な営農活動